

令和6年度 人材育成計画

海田町立海田西小学校
校長 出元 永子

1 人材育成のねらい

本計画の推進にあたっては、広島県教育委員会「人材育成の基本方針」及び海田町学校教育施策の方針「海田町夢未来ビジョン」を踏まえ、本校の学校教育目標である「夢と志を持ち、よりよく生きようとする児童の育成」を達成し、信頼される学校づくりを進める。

- (1) 教職員一人一人が、教職員のあるべき姿のイメージを持ち、海田西小学校の職員として、学校教育を推進する一員としての自覚を持つ。
- (2) すべての教職員が児童の成長、人格形成に大きくかかわるという自己の職責の重要性を十分に自覚し、自らの資質・能力の向上を図る。
- (3) 教職員の意識改革、学校運営参画能力を向上させるとともに、学校教育目標の実現に向けて組織としての力を発揮させ、学校の教育力を高める。

2 本校の教職員に期待する役割、資質・能力

めざす教師像 「高め合うプロ集団」

One Team かかわりきる チャレンジ精神 学び続ける

| | |
|---------|----------------------------|
| 教 頭 | 教育指導力・学校運営力・学校経営補佐力 |
| 主 任 層 | 分掌部運営力・企画力・連絡調整能力 |
| 教 諭 層 | 学習指導力・生徒指導力・保護者、児童、同僚との連携力 |
| 養 護 教 諭 | 保健管理力・保健指導力・保護者、児童、同僚との連携力 |
| 事 務 職 員 | 学校事務の処理能力・正確で適切な予算執行能力 |
| 栄 養 職 員 | 食育指導力・安全で適切な給食の実施・組織貢献力 |
| 非常勤職員 | 役割の自覚と連携・組織貢献力 |

3 主な取組

長いスパンのPDCAサイクルと短いスパンのPDCAサイクルを組み合わせ、学校マネジメント組織の確立による人材育成の推進を行う。

(1) OJTの活用

- ① 日常的な助言や仕事ぶりから学ばせる。
 - ・それぞれの仕事の意義や目的を理解してから取り組ませる。
 - ・見せてイメージを膨らませる。

- ・「報・連・相」と「確・連・報」を適切に行わせ、それぞれの仕事の価値づけをする。
 - ・相手の状況に合わせて段階的に、教える・見せる・感じさせる。
 - ・校内巡視等により日々の具体的な助言・指導を行う。
- ② 新たな職務を経験させ、積極的なジョブ・ローテーションも行う。
- ・任され、経験することの意義を自覚させる。
 - ・成果と課題を確認しながら、新たな課題を発見させたり提案させたりする。
- ③ 教員相互で学び合う場（校内研修）を活用する。
- ・一人一人に自分の課題をもたせる。
 - ・日常の授業や指導場面で実践する。
 - ・一人一人に役割を持たせる。
 - ・成果と課題を確認し、改善策や指導法の工夫をさせる。
- (2) 新たなものに果敢に挑戦する意欲の醸成
- ① 学校経営目標と学校評価・業績評価（自己申告書）の連鎖を図り、マネジメント・サイクルを効果的に活用する。
- ② 面談を活用し、業績評価（自己申告書）の自己目標の達成に向けて意欲的に取り組ませる。
- ③ 校外研修に積極的に参加させ、講師として学んだことを校内に還元させる。
- (3) 他の教職員と連携・協働し、組織的に職務を遂行できる能力の育成
- ① 「報・連・相」と「確・連・報」を日常的に実践させる。
- ② すべての職員に学校運営における必要な情報を共有させ、組織の一員としての自覚をもたせる。
- ③ 主任を核としたボトムアップ能力の向上を目指し、自律的な校内組織の活性化を進める。
- ④ 企画委員会を計画的に実施し、進捗状況を確認して改善策を策定し実施させる。
- (4) 教育公務員として職責を全うする自覚と責任の醸成（是正を風化させない取組）
- ① 率先垂範の意識をもたせる。
- ② 県資料「教職員による不祥事の根絶—信頼され続ける教職員であるために—」などを活用し、服務規律の徹底を図る研修を継続的に実施する。
- ③ 事例研修やグループ討議を取り入れて当事者意識がもてるように校内研修の充実を図り、教育公務員としての自覚を促す。
- ④ 誠意ある応対を意識させる。（あいさつ、服装、ことばづかい、電話応対、心ある接客）